国語 Vol.3

本書の構成と特色

本書の構成

本書は、全体が「習得編」「定着編」「演習編」「実戦編」の四つの章に分かれていて、基本・標準レベルの問題から、発展・実戦レベルの問題まで、段階的にステップを踏んで学習することができます。

一つの章は十単元で構成されています。十単元の内訳は、文章読解の学習として、「文学的文章」が三単元、「説明的文章」が三単元、「詩・短歌・俳句」あるいは「古典」が二単元、文章読解以外の国語の学習として、「漢字・語句」あるいは「表現・作文」が一単元、「文法」が一単元となっています。この一つの章のサイクルを、一冊の中で四度繰り返します。章を重ねるごとに、長い文章、難度の高い問題が織り交ぜられていくので、国語の学力を無理なく高いレベルまで引き上げることができます。

第一章　習得編

習得編では、文章のジャンルに沿った読み取り方（人物の心情の読み取り方など）を学習します。平易な文章を取り上げた〈例題〉を材料に、〈解法のポイント〉では「どう考えるか、どう読み取るか」が示されています。これを頭に入れてから〈確認問題〉を解くことで、文章読解で必要となる基本的な力を身に付けることができます。仕上げの〈練成問題〉では、そのジャンルの文章読解のスキルがしっかりと身に付いたかを確認します。

第二章　定着編

定着編では、さまざまな読解問題についての解法（要旨・主題の把握など）の定着を図ります。そのジャンルの文章読解に不可欠な解法を、〈例題〉と〈解法のポイント〉で学習し、〈確認問題〉で実践することによって、確実に身に付けることができます。仕上げの〈練成問題〉では、学習した解法が長い文章題でも活用できるように練習します。

第三章　演習編

演習編では、第二章までに学習した内容をさらに深め、さまざまな文章題のパターンに対応できるように、問題演習を行います。文章題には、教科書レベル・公立高校入試レベルの標準的な文章を素材として取り上げています。特に、文学的文章と説明的文章の長文読解の単元では、ことばの意味などの知識で解ける問題はできるだけ抑え、考えて答えを出す問題を数多く出題しています。なお、第三章の「古典」「表現・作文」「文法」の単元では、〈例題〉→〈解法のポイント〉→〈確認問題〉で、国語知識を学習します。

第四章　実戦編

実戦編では、私立上位校までの実際の入試問題を想定した文章題を出題しています。第三章までに比べて、読解単元の素材となる文章もぐんと長くなるので、粘り強く文章を読み解く力を養うことができます。すべて〈練成問題〉で、難度が高く応用力を要求される設問も多いので、じっくり考えて判断するという、問題に取り組む姿勢も身に付けることができます。

漢字練習

四つの章の単元数に合わせて、四十回分の漢字の練習問題が巻末に付いています。

SAMPLE

目次　国語 Vol.3

第一章　習得編

1 文学的文章（1）（小説）……4
例題　確認問題

2 文学的文章（2）（小説）……8
確認問題

3 文学的文章（3）（小説）……12
練成問題

4 説明的文章（1）……16
例題　確認問題

5 説明的文章（2）……20
確認問題

6 説明的文章（3）……24
練成問題

7 詩（1）……28
例題　確認問題

8 詩（2）……32
練成問題

9 漢字・語句（1）（漢字の成り立ち／部首／熟語の知識）……36
例題　確認問題　練成問題

10 文法（1）（文の組み立て）……40
例題　確認問題　練成問題

第二章　定着編

11 文学的文章（4）（随筆）……44
例題　確認問題

12 文学的文章（5）（随筆）……48
確認問題

13 文学的文章（6）（随筆）……52
練成問題

14 説明的文章（4）……56
例題　確認問題

15 説明的文章（5）……60
確認問題

16 説明的文章（6）……64
練成問題

17 短歌・俳句（1）……68
例題　確認問題

18 短歌・俳句（2）……72
練成問題

19 漢字・語句（2）（類義語・対義語／ことわざ・慣用句など）……76
例題　確認問題　練成問題

20 文法（2）（品詞の分類ほか）……80
例題　確認問題　練成問題

SAMPLE

第三章　演習編

21 文学的文章(7)（随筆）……84
練成問題

22 文学的文章(8)（随筆）……88
練成問題

23 文学的文章(9)（随筆）……92
練成問題

24 説明的文章(7)……96
練成問題

25 説明的文章(8)……100
練成問題

26 説明的文章(9)……104
練成問題

27 古典(1)……108
例題　確認問題

28 古典(2)……112
練成問題

29 表現・作文(1)……116
例題　確認問題　練成問題

30 文法(3)（単語の識別）……120
例題　確認問題　練成問題

第四章　実戦編

31 文学的文章(10)（小説）……124
練成問題

32 文学的文章(11)（小説）……128
練成問題

33 文学的文章(12)（小説）……132
練成問題

34 説明的文章(10)……136
練成問題

35 説明的文章(11)……142
練成問題

36 説明的文章(12)……148
練成問題

37 古典(3)……154
練成問題

38 古典(4)……158
練成問題

39 表現・作文(2)……162
練成問題

40 文法(4)（文法総合）……166
練成問題

付録：漢字練習1〜40……170

SAMPLE

第一章　習得編

1 文学的文章（1）（小説）

例題 1

〈川上健一「理由（わけ）」より〉

(1) ――線部「私がレースで滑っている写真は一枚もない」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

① 「私」はその理由をどう考えていましたか。本文中から十八字（句読点も字数に数えます）で書き抜いて答えなさい。

② このあと「私」が理解した本当の理由を書いて答えなさい。

(2) 本文の主題として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　決して諦めることなく懸命に努力する息子への賞賛。

イ　自分自身の体験を通じて初めて気づいた父の愛情。

ウ　父と同じ過ちをおかしてしまったことの後悔。

エ　息子との思い出を大切にしようとする父親の愛情。

解法のポイント

(1) ① **内容理解**　「私」がレースで滑っている写真が残っていない理由について、「私」の考えが書かれている部分をとらえましょう。二つあとの文に「**倍率の大きな望遠レンズがなかったから**」とあります。

② **心情**　「息子が一生懸命頑張っているのに、親の俺が応援しないで写真なんか撮っていられるか！」に注目。父が「私」のレース中の写真を撮らなかったのは、「**息子を応援するのに夢中で、写真を撮っている場合ではなかったから。**」だということがわかります。

(2) **主題**　息子の応援に夢中になるあまりビデオ撮影を忘れてしまうという体験を自分自身がすることで、父親がなぜ自分のスケート中の姿を写真に撮っていなかったのかを理解し、その愛情に気づくという筋立てになっています。したがって、主題としてはイ「**自分自身の体験を通じて初めて気づいた父の愛情。**」が適切だといえます。

SAMPLE

例題❷

〈伊藤整「少年」より〉

（注）薬きょう＝鉄砲の弾を撃つのに必要な、火薬をつめる容器。

(1) 本文中では、いつ、だれが、どこで、何をした場面が描かれていますか。書いて答えなさい。

(2) ――線❶「息がつまりそうであった」とは、「私」のどういう気持ちを表していますか。書いて答えなさい。

(3) ――線❷「その蒼白い懸命な横顔が、私をふり切っていた」という様子からは、房太郎のどういう気持ちが読み取れますか。書いて答えなさい。

解法のポイント

(1) **設定** 小説では、まず設定（どういう場面か）をつかむことが大切です。まず、「いつ」は「白い大きい重たそうな雪片が～」とあることからわかります。次に、「どこで」は「子供たち」「田崎先生」などからわかります。さらに、「はげしく私の手の中でバッという音が立ち、煙があたりにひろがった」が、「私」が何をしたことを表しているのかを考えましょう。本文中で描かれているのは「**ある冬の日、私が、学校で、誤ってピストルを発射した場面**」です。

(2) **心情** 本文の中に気持ちを直接表す表現がない場合には、登場人物の会話や、表情、しぐさなどから、その気持ちを読み取ります。ここでは、「私」が「そうか、そうか。すごいなあ」という言葉を発しているので、「**感動と興奮でいっぱいの気持ち**」です。

(3) **心情** 「房太郎はそ知らぬさまで～知らないよ、と～私をふり切っていた」という房太郎の表情から考えます。「**責任を『私』に押しつけて、自分は無関係なふりを押し通そうとする気持ち**」です。

SAMPLE

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈新美南吉「雀」より〉

□(1) **内容** 「私」の思い通りにならない子雀を、たとえを用いて表していることばを、本文中から書き抜いて答えなさい。

□(2) **表現** ――線❶「学校にあっても、私はチュッチュッという雀の鳴き声ばかりを耳にした」とは、どういうことを表現していますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 教室の窓の外で鳴く雀に「私」が気をとられていたということ。
イ 家に置いて来た子雀のことばかり「私」が考えていたということ。
ウ 教室のみんなが盛んに雀の口まねをして遊んでいたということ。
エ 学校でも雀を飼っていて、教室がにぎやかだったということ。

□(3) **心情** ――線❷「私の懸念」とは、どういう懸念ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 子雀は、何も食べないで弱っているのではないか。
イ 子雀は、私より母になついているのではないか。
ウ 子雀は、今ごろ籠をぬけ出しているのではないか。
エ 子雀に食べさせるのに竹ばしでは駄目なのではないか。

□(4) **人物像** 本文中から、「私」はどのような子であることがわかりますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 心配性で、怒りっぽい子。
イ 無邪気で、心の優しい子。
ウ 知恵が働いて、よく気がつく子。
エ 大らかで、心のゆとりがある子。

SAMPLE

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈曽野綾子「太郎物語」より〉

（注）意気阻喪＝すっかり元気がなくなること。

□(1) **設定** 本文中では、太郎たちが何をする前の場面が描かれていますか。「**～前の場面。**」という形で書いて答えなさい。

前の場面。

□(2) **心情** ――線部「すべてが気になる」とありますが、この心理状態をくわしく表現していることばを本文中から四十二字（読点も字数に数えます）で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。

□～□

□(3) **主題** 本文中で中心的に描かれている太郎の姿として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の体調の良さを自覚して、自信満々で相手を見下ろし、心のゆとりを保っている太郎の姿。

イ 緊張して神経質になりながらも、感情の高まりを抑え、落ち着きを失うまいとしている太郎の姿。

ウ 張り切って闘争心をかき立てる一方で、ライバルとなる相手たちの様子を冷静に観察している太郎の姿。

エ 少しでも自分が優位に立てるように、競争相手たちに重圧をかけようとして知恵を巡らせている太郎の姿。

□

SAMPLE